



CBC NEWS

2010年5月号

中央聖書神学校

冬のオリンピックが終わり、続いてパラリンピックも閉幕しました。そこには熾烈な競争がありました。勝たねばメダルを首に掛けてもらえませんが、競い争う結果、歓喜の涙と悔しさの涙とが交錯します。真のスポーツマンであればそこに崇高な何かを感じ、早くも四年先の意欲を燃やし、厳しい練習に余念がないことでしょう。使徒パウロはスポーツを例にとつて「朽ちない冠」のために「自制・節制」をし、「自分の体を打ちたたき」厳しさの必要を強調しています。あるスポーツはチームで競争します。各自の技量が優れていなければならない。それらの技量が相互にかみ合い、響き合えば、勝利につながらないのです。

中央聖書神学校はチームで動いています。学生、職員、教師一人一人は各自が役割を担っています。冬は、各々が自分の役割を担い、チームとして一つの目標に向かって努力しています。冬は、各々が自分の役割を担い、チームとして一つの目標に向かって努力しています。冬は、各々が自分の役割を担い、チームとして一つの目標に向かって努力しています。

自に与えられた賜物を生かし、それぞれの分担をしっかりとわきま、協和して主から受けた使命達成に全力を尽くしています。私たちはキリストの体に属する霊的な有機体の一部であつて、単なる部品ではありません。キリストの体であるチームメンバーは、オケストラの団員のように指揮者である主の指揮棒にすべてをゆだねて集中するとき、美しく響き合う「交響」が生まれます。その作業を私は「協奏」と呼びます。そこには聖なる感動があります。その感動が連鎖反応を起すのです。キリストと有機的な繋がりを持ち、互いに響き合うべく関係の中に聖霊が働きやすくなる場が準備されます。それがやがて「激しい風が吹いてくるような響き」をもたらすのではないのでしょうか。



「競争」、「協奏」そして「共創」
新人生を迎えて

校長 北野耕一

息吹 Vol. 39



ATA 認定校
中央聖書神学校入学のご案内
校長 北野耕一
入学資格: 高卒以上、召命の確信がある方
【本校入学試験】
第Ⅰ期: 2010年11月3日(水・祝)
第Ⅱ期: 2011年2月22日(火)
【願書〆切】
第Ⅰ期: 2010年10月26日(火)
第Ⅱ期: 2011年2月15日(火)
【オープンキャンパス】 2010年9月23日(木・祝)
【通信科入学試験】 2011年3月12(土)
【通信科願書〆切】 2011年3月5日(土)
【通信科スクーリング】
2011年1月31日(月)～2月5日(土)
本校・通信科 お問い合わせ先
〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
Tel.03-3918-4925 Fax.03-3918-4064



編集後記

広報部2年目となり、CBCNEWSの編に携われる恵みを感じています。新年度で新たなメンバーも加わり、今年も主がどんな素晴らしいことをくださるのか期待しつつ、より多くの皆様にこの新聞を手にとりていただけるよう努めたいと思います。(2年 高山 咲)

CBC NEWS 2010年5月号

編集スタッフ(広報部)

毛利 佐保・高山 咲・森本 亮介
新井 晴美・田原 聖二
編集責任者: 北野 耕一
事務局: 中央聖書神学校

静心

「小さな成功と失敗」

2年 関本英樹

献身を決意して以来、教会や学校生活の奉仕を通して小さな成功と小さな失敗を経験してきた。そして、学んだ。どちらも主の憐れみによるのだという事を。奉仕を前にして恐れや不安が生じることは多々あったが、主の憐れみによって成し遂げることができた。それは小さな成功であるが、それで自分自身を誇ることや、他人と比較するためのものではない。なぜなら、そういう思いを持ったとき、主は小さな失敗を与え、その失敗を通して、小さな成功によって「誇れる」と思っていた事も、それはただ自分だけの誇りであって、他の人に対して誇れる事ではないと教えて下さるからだ。だから小さな失敗も恐れなくていい。失敗によって自分が砕かれ、新しい可能性を主が生んで下さるという事をこれからも経験するために。

学校の動き 2009年10月～2010年3月

【運営委員会】 2009年10/20、11/10、12/7、2010年1/26、2/23
【人事委員会】 2009年12/21 【教授会】 2009年12/7
【学校理事会】 2009年12/21、22、2010年3/10、11
【60周年記念誌編集委員会】 2009年12/1、2010年1/27、3/15
【冬期派遣】 2009年12/5～2010年1/10
【入学試験】 第Ⅰ期 2009年11/3 第Ⅱ期 2010年2/23
【卒業式】 2010年3/9 (説教 菊山和夫校長)

人事異動 (敬称略)

【学校理事会】 (2009年11月総会後～2010年3月まで)
＜理事長＞ 佐々木正明 ＜理事＞ 下道定身 堀川寛 平松慶次 内村保
ビル・パリス 久保田寛 菊山和夫 多田睦夫
【学校長】 (2010年4月1日付) 北野耕一

献金者ご芳名 (2009年10月～2010年3月)

一般献金	ダビデの石奨学金献金	
【教会】	【関東北東教区】	【関西教区】
嘉手納アッセンブリー教会	神召キリスト教会	尾崎キリスト教会
川崎中央福音教会	東京アーバンチャーチ	【四国教区】
下関シオン教会婦人会	狭山キリスト教会	中村福音キリスト教会
仙台神召基督教会	中央福音教会	高知聖書教会
練馬キリスト教会	【関東南西教区】	【九州教区】
御影神愛キリスト教会	武蔵野基督教会	佐伯聖書キリスト教会
【個人】 (敬称略)	【東海教区】	本渡基督教会
大坂太郎・智子	天塚基督教会	【個人】
吉崎雅子 匿名1名		匿名1名

杉田キリスト教会



杉田キリスト教会では、久保田潔先生、説子先生の導きの中で、午前と午後の祈禱会が持たれており、私たちは午前の会に参加させていただきました。

ご婦人の方、また出勤時間に合わせて参加されている男性も多く、深い祈りの時、力強い御言葉を頂く時となりました。私たちは特別賛美、証しのご奉仕などをさせていただきました。祈禱会後の信徒の方々との良き交わりの時も感謝でした。



教会訪問の恵み

3年 森下 真理子

今回4つの教会を訪問させていただきました。女性の先生方とお話の中では、女性一人の伝道牧会ゆえに困難なこともあるとお聞きました。しかし女性だからこそ取り組みやすい伝道方法もあるということも知り、卒業後の伝道牧会のビジョンを祈り備える上でよい学びを得ることが出来ました。あれもこれもではなく、地域の必要を知り、その中で今、出来る働きに焦点を当てていくことの大切さを教えられました。教会では明るい会堂や集会室、整った会場の様子など、小さな配慮があちらこちらにみられました。一歩足を踏み入ると、心休まる空間がある教会、輝いた笑顔に出会える教会で、キリストの愛がより豊かに伝えられて行くと感じることが出来ました。このような素晴らしい教会訪問の機会を与えてくださった主に心から感謝します。



構さんありがとうございました!!



千葉幸子さん
6年間美味い
ランチを
ありがとう
ございました

新しい
胸いさん
香月八重子
さん

23年もの間、中央聖書神学校の胸いさんとして仕えてくださった構美津子さんが、この4月をもって皆に惜しまれつつ退職されました。神学生をはじめ、学校に携わる先生方や事務の皆様の健康を美味しいお食事で支えてくださった構さんに心から感謝いたします。構さんが語っておられた、神様からいただいた新たなビジョンの上に、健康が支えられ豊かな祝福がありますように!!

また、6年間ランチの胸いを担当してくださった千葉幸子さん、3月末に退職されました。お二人とも本当にありがとうございました。

☆ God Bless You All ☆ (広報部・毛利)

2010年度中央聖書神学校入学式

2010年4月6日(火) 中央聖書神学校のチャペルにて入学式が行われました。

その後、一日間にわたる聖別会が行われました。御言葉に耳を傾け、祈りと賛美と聖霊の深い臨在の中、恵みの時となりました。(広報部・高山)

新入生氏名(出身教会)

本校

新井 晴美 (中央聖書教会)

神山 茂紀 (嘉手納アッセンブリー教会)

下道 恵 (札幌神召キリスト教会)

杉浦 麻衣子 (大和リバイバル教会)

田原 聖二 (中央聖書教会)

山城 良美 (那覇アッセンブリー教会)

通信科

金 泰河 (藤沢純福音教会)

塩谷 美和 (中央福音教会)



本校新入生 献身の証



新井 晴美
(2学年に編入)

ヨハネ二十一章「あなたは私を愛するか」の御言葉が幾度となく示されていきました。この問いかけは、それまでの私の多くの過ちに対する主の責めだろうと考えておりましたが、祈りを通して

「あなたは私を愛するか」という御言葉の前提には「わたしはあなたを愛している」という言葉があることに気付かせて頂きました。「愛するか」という用を託す者はありません。私は主の召命を確信し、それに従って生きる者にならせて頂きたいと決心しました。「ひたすら主に喜ばれる者でありたい」(第二コリント五章九節)を胸に、第二の人生を歩み切りたいと強く願っています。



神山 茂紀

私が小学三年生の時、父は献身の思いを持って天に召されました。献身とは、父の思いを私が成し遂げるのだと思っていました。しかし神さまはそんな思いを許しませんでした。自分の弱さ、罪深さが神の前に現され、気づきと悔い改めを主に誓いました。その時父の献身から自分自身の献身



下道 恵

『私たちは自分自身を真に伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。』(第二コリント四章五節) 日々神さまに仕えるものとして歩み続けます。



杉浦 麻衣子

天国では私のような者を召し出さなければいけないほどの人材不足。神様もさぞかし悩んでいる様子。私としては頂いた最高のチャンスをモノにできるよう、また神様が召し出したのを後悔されないよう、神学校生活を励んでまいります。またこの場をお借りして今まで祈ってくださいました両親や札幌レインボーチャペルの兄弟姉妹、その他の教会の皆様方、友人に感謝！そしてこれから祈ってくださいる全国の兄弟姉妹たちにも感謝します！(ハレルヤ！)

第二コリント五章一七節二十一節を読んでいる時のことでした。「和解」と「キリストの使節」という言葉が私にせまってきました。キリストにあつて神様と和解ができていくことが嬉しく、喜びが湧きあがってきました。



田原 聖二

主と共に歩むなら古いものは過ぎ去って新しくなれる。なんと素晴らしい生き方でしょう。この素晴らしい福音を独り占めせず、キリストの使節として、和解のことはである福音を宣べ伝えることを主は願っておられると確信し、献身を決心しました。こんな小さな者に声をかけてくださった神様に感謝します。

私は暴走族のようなことをしていましたが、神の愛を知り、悔い改めました。この時「イエス様のため、この命を捨ててもかまわない！」そう覚悟しました。

それから約十年。何度かのお方に背いたか分かります。しかし、不思議です。あの三度主を否んだ弟子への招きのお言葉が、私の内にさえ今なお留まっています。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」「ヨハネ二十一章十七節」勉強と団体行動は昔から大の苦手です。しかし、福音宣教のため学びと訓練に励んでまいります。祈って送り出してくださいました兄弟達に心より感謝をいたします。



塩谷 美和

通信科新入生 献身の証

主の御名を賛美いたします。私はクリスチャンホームに育ち、幼い頃から教会に通っていました。小学生の頃には「牧師婦人になりたい！」と言っていた事を覚えています。大きくなるにつれ家計が厳しい状態である事を知り、社会に出て働きました。しかし2009年の1月に神様は私にはつきりと召しを与えて下さり、必要な備えと進む道を開いてくださいました。そしてこのたび中央聖書神学校へ入学する事が出来ました。CBCへの入学は、私にとつて思いもよらない事だったので不安も多くありますが、神様に委ねて頑張りたいと思います。全ての栄光を神様へお返しいたします。感謝します！

子供の頃から生と死に対して疑問を持ち、思春期には非行の道に走り、自ら命を絶とうとするような人生を歩んでいました。ある日、新聞折り込みのタウン情報誌に載っていた「ゴスペルを

金 泰河
(キム テハ)

「緒に歌いませんか」という小さな広告をきっかけにゴスペルを始め、その後教会に導かれ、救われ、生きるこの意味、そして音楽を通して福音を伝えていく喜びが与えられました。それから十年間、母教会で、またいくつかの教会でゴスペルを通して働き、2年前の結婚を機に環境や生活の変化があり、今年、ずっと祈っていた学びをはじめることが許されました。救い主である主に、これからも捧げていきたいと思っています。

私は小学1年で救われ中学3年で牧師になる事を誓いました。しかし、時間とともに献身の誓いを忘れ、忠実な信仰生活と、経済的、物質的に教会に献身することを目標に生活するようになりまし。ところが、社会人生活をする中で心の深いところから中学のとき告白した献身の祈りが私の心を揺さぶり、使命感が再び燃えてきたのです。

日本の親戚の招きもあり、日本宣教の夢が芽生え始め、2004年来日しました。日本の大学を卒業するまで波乱万丈の日々でしたが、神様の「日本に行きなさい、あなたを卒業するまで守つてあげるから」という語りかけ、そして御言葉を固く信じて一歩を踏み出したことを忘れずに、これからの学びに励んでいきたいと思いま



教会訪問の恵み

2010年3月、三春台キリスト教会、多摩ヒルサイドチャーチ、麻生キリスト教会、杉田キリスト教会の4教会を訪問し、伝道集会やトラクト配布、祈祷会参加などをさせていただきました。(広報部・高山)

三春台キリスト教会



2008年度に卒業された横山唯一先生が牧会されている三春台教会にて、午前中は礼拝、トラクトの折り込み作業などを行いました。昼食を共にした後、それぞれが持参したリュックにPower for Livingを詰め込み、地図を片手に一時間半ほど町内にポスティングしてきました。その後横山先生との交わりの時をもち、貴重なお話しと祈りの時をもつことが出来ました。



多摩ヒルサイドチャーチ



駅より3分ほど歩くと明るい看板と「教会はこちらです」という旗が迎えてくれます。約1時間程の伝道集会をさせていただきました。集会後には岸邦子先生を始め教会員の方々の昼食と交わりの時をもつことが出来ました。参加した方のお一人は、地域の新聞を通して教会導かれたという事で、教会と地域とのつながりの重要性を確かめる機会となりました。



麻生キリスト教会



午前中の多摩ヒルサイドチャーチから、午後は麻生キリスト教会へ向かいました。岩田明美先生が笑顔で迎えてくださり、教会員の方が用意して下さったトラクトを区域ごとに配布させていただきました。

その後自己紹介を兼ねた質問コーナーなどもあり、神学校生活に必要な学びについて、また女性の牧会における配慮など様々なことを教えていただきました。



イスラエル研修ツアー参加者

＜教師＞ 6名
安田師、久保田師、込尾師
野川師、北野師、船津師

＜神学生＞ 18名
本校 … 12名
関東分校 … 1名
関西分校 … 1名
通信科 … 4名

計 24名



2010年1月12日～20日にかけて、
イスラエル研修ツアーに
参加させていただきました。

今回の研修ツアーは、3年前の2007年に引き続き、神学校としては2度目の恵みとなりました。教師、本校生、関東・関西分校生、通信科生が参加し、参加する神学生は、後期の授業で事前にイスラエルの地誌を学んでからツアーに臨みました。沙漠地方から、エルサレムに向かってツアーは進められました。エルサレムに着くまでは好天に恵まれ、マサダの要塞や、変貌山などに登ることができ、死海浮遊やガリラヤ湖遊覧なども体験できました。エルサレムに着いてからは、10年に一度というめずらしい大雨に遭遇し、先に巡ったマサダの要塞は、鉄砲水に見舞われ命を失った方もいて閉鎖されたという情報が流れてきました。雨の少ない地方では、恵みの雨もすぐに洪水になってしまうという自然の猛威も知ることができました。随所で、安田真師の解説や、教職の先生方によるメッセージや祈りがあり、園の墓では、イエス様の十字架の苦しみと復活の喜びを、実に間近に感じながら、聖餐にあずかることができました。今回のツアーに参加した神学生たちは、「聖書に書かれていることは本当だったと確信できた。」「事前の学びを実際に確認できた。」「イスラエルの文化を体験的に知ることができた。」「イエス・キリストがミナストリーを展開されたガリラヤ地方、そして最後の一週間を過ごされた聖なる都エルサレムを、自分の足で歩いて、五感で感ずることができたことにより、イエス様の十字架の贖いと恵みを、これからはリアルに伝えることができそうだ。」「など、口々にツアーで得た貴重な体験を熱く語っていました。この研修ツアーを通して、私たちに学びを与えて祝福してくださった主に、そして、ツアーのために祈り支えて下さった皆様に、神学生一同心から感謝いたします。(広報部・毛利)

ガリラヤ湖



エリコいちぢく桑の木

2009年度 卒業式

3月9日(火) 第60回卒業式が行われました。卒業されて、それぞれの任地で活躍されている6名の先生方に、今後の抱負を伺いました。(広報部・毛利)



Congratulations!

〔本校〕

☆ 相原 恵子 師 天塚基督教会

「主に信頼すること、主はどのような時にも私を支えてくださることを教えられた神学校生活。このお方に聞き従い、地域に根差した伝道、牧会に励みます。主の栄光がこの地に満ちることを期待して。」

☆ 栗屋 信吾 師 成田キリスト教会

「ペンテコステの力と聖霊の賜物のあらわれ、十字架による古き人の死と心のきよめ、御言葉と神学と歴史のしつかりとした学び、この三つの柱をバフランス良く追い求め、力強く、かつ健全な教会形成をしていきたいと願っています。」

☆ 小石 雅枝 師 豊橋キリスト教会

「私は、教会につながる一人ひとりが、神様の愛に強められ、結び合わされ、この世界に教会を通して神様の美業があらわされていくために(エペソ四章十六節)、日々主に頼り、従い、用いられていきたいと思えます。」

☆ 平松 契 師 和泉神愛キリスト教会

「私は主に喜ばれる者になりたいです。自分の足りなさも、愚かさも、全て十字架の影に隠して頂いている事に感謝し、この恵みの上にしっかりと立て、キリストの体を建てる為に生涯かけて働きたいと思えます。」

〔関東分校〕

☆ 岡山 志伸 師 新中野キリスト教会

「就任後の教職者としての新たな出発は、地平線の彼方を見るような不安や恐れがありますが、『わたしに従ってきなさい。』という御言葉に支えられつつ、主が与えて下さっている展望とビジョンに向けて、一歩一歩従って参ります。」

〔関西分校〕

☆ 上田 努 師 武庫川純福音キリスト教会

「慣れ親しんだ学び舎を離れることはとても寂しいです。でも、私には主に召された使命と、待っている羊がいます。ここに至るまでに多くの先生方や信徒の方々に支えられてきたことを、卒業した今、つくづく感じます。この場を借りて、神様とみなさんに感謝します。」



右から
平松 契 師
栗屋 信吾 師
上田 努 師
岡山 志伸 師
小石 雅枝 師
相原 恵子 師

中央聖書神学校 後援会だより 2010 年 5 月号

後援会会費納入へのご協力に感謝致します

天候不順に驚かされましたが、ようやく新緑が目を楽しませてくれる季節となりました。神学校も新入生を迎え、活気に満ちた新学期をスタートいたしました。教師の方々も新たな心持ちで献身者の方々を迎えておられます。

中央聖書神学校は全国諸教会の先生と信徒の方々の祈りに支えられ、祈り、学び、実践において訓練された伝道者を第一線に送り出させて頂いております。皆さまの信頼とご協力なくしては前進できません。

後援会はその働きのために幾ばくかを捧げ、捧げられた方々と慶びを共有させて頂いております。

昨年は幸いにも 27 の法人会員と 109 名の個人会員のご協力を頂きました。そのお志に心から感謝申し上げます。

しかし、目標とする額には到達できておりません。2010 年は会員の 1.5 倍増を目指してまいりますのでお祈り下さい。

後援会新規加入へのお願い

中央聖書神学校のはたらきのために祈っておりましたが、「後援会のあることなど知りませんでした。」といわれる方がお有りでしょう。有るのです。祈りに添えて財を捧げることにより、自分が献身できなくても福音宣教に加わらせて頂く道が！

早速 2010 年からお始め下さい。あなたの熱い祈りと心からの捧げ物が、神学校を一層充実させる事でしょう。

なお、年会費は下記の通りです。宜しくお願いいたします。

御教会の上に豊かな祝福が有りますように、また、皆様方の上に神の恵みが豊かにありますようにお祈りいたしております。

年会費	法人会員	一口	10,000 円（何口でも可）
	個人会費	一口	5,000 円（何口でも可）
振込先	中央聖書神学校後援会 振込み用紙を用意いたしております。		



中央聖書神学校後援会会長 多田 睦夫 書記 菊地 亘
申し込み・問い合わせ 中央聖書神学校事務局 Tel 03-3918-4925